

ヴァル・カモニカの岩絵を訪ねてー世界最古の地図ー

星埜由尚

地図の歴史を勉強すると、必ず教科書的に出てくる先史時代の代表的地図として、北イタリア、ヴァル・カモニカの岩絵地図がある。近年は、ウクライナなどで 10000 年前の壺に描かれた地図などもあると言われていたようであるが、その図柄などから地図であるとはっきり言えるのは、ヴァル・カモニカの岩絵地図であろう。

この 4 月、ヴァル・カモニカの岩絵地図を見ることを第一の目的に、その他中世の地図を訪ね、併せてヴェネツィア、フィレンツェなどの世界遺産も見ると北イタリアを個人旅行した。

ヴァルカモニカは、スイスへの国境に近く、ミラノにも近い風光明媚で静かな谷（ヴァル）である。氷河に削られてU字型を成した広い谷には、いくつかの小さな村が点在し、山の中腹の高所にも集落があり、谷底から見上げると、家並みと教会の尖塔などが見られる。

ヴァル・カモニカには、約 1 万年前からキリスト紀元に至る長い間に彫られた岩絵が点在している。先住のカムニ族が彫ったもので、世界遺産に指定されている。イタリアは、世界一世界遺産の多い国であるが、ヴァル・カモニカの岩絵は、そのなかでもイタリアで最初に指定された世界遺産である。イタリア第 1 号世界遺産であるにも拘わらず、余り知られておらず、日本から行くツアーでヴァル・カモニカが組み込まれているプランは皆無である。従って、ヴァル・カモニカを訪ねるには、鉄道か車でミラノ、ブレーシャなどから行くしかない。カムニ族は、ローマ史で言ういわゆる蛮族であるが、ローマに征服され同化されてしまったので、現在は、カムニ族を名乗る人はいない。

この岩絵には、地図と言われる絵があり、文字のない社会におけるものとしては最古の地図と言われている（因みにメソポタミアには、粘土板に描かれたより古い時代の地図が



カポディポンテの駅前



岩絵地図

発見されている)。約 3500 年前に描かれたと言われており、畑、道路、家などと認められる絵が岩に彫られている。

ミラノから特急列車（結構早い。特急ひたちに相当）で約 45 分のブレシア (Brescia) からローカル私鉄の気動車に乗換え約 1 時間半、氷河の削った U 字谷の中をモレーンにせき止められた湖や、残雪の残る岩山などを見ながら、岩絵遺蹟の入口カポディポンテ (Capo di Ponte) に到着する。カポディポンテは、小さな村で、駅は無人駅である。

駅前に地図の看板があり、近くに案内所があるので案内所に行きパンフレットなどをもらい、50 ユーロで英語のガイドを頼めるといのでガイドを頼んだ。ガイドに岩絵地図を見たいというと、地図のあるベドリーナの岩絵に連れて行ってくれた。ベドリーナの岩絵は私有地のように、小屋があり、鍵のかかった扉を開けて入る。小雨の降る中、斜面を少し降りたところに地図の岩絵があった。草の生えた緩い斜面の中に顔を出している岩盤に彫られている。もっと広い岩盤の上に彫られているものと思っていたが、意外と小さく、説明によれば、発掘後埋め戻されているので、斜面の土の下にも岩絵があるのだろう。地図の教科書に出ているように、家や畑と思われる絵が鮮明に彫られ、道と思われる線でつながっている。

これが地図と言えるかどうか、議論はあるだろう。ガイドの説明では、この絵は現実を写したものではなく、頭で描いたイメージと最近では解



Massi di Cemmo の岩絵のある岩塊



ナクアーネ岩絵公園の岩絵(1)



ナクアーネ岩絵公園の岩絵(2)

積されているという。しかし、現在のこの地の土地利用形態と、この絵が描かれた当時とは、全く異なるわけだから、それぞれの地図の絵記号について、それぞれどの場所の何を示したのか解釈するのは極めて難しい。絵記号については、家は明らかに家であるし、畑もそれらしい。全体から見ると地図といって全く差し支えないのではないかと思う。

この後、岩絵の描かれている他の場所を見学した。、Massi di Cemmo の岩絵公園とナクアーネ (Naquane) 岩絵公園

である。Massi di Cemmo の二つの大きな岩塊には、鮮明に木や人、動物などの絵記号がたくさん彫られている。おそらくこの岩塊は、背後の斜面から落下したのだろう。木々に覆われた斜面には岩絵が隠れているのかも知れない。

ナクアーネ岩絵公園は、最も整備され、中に遊歩道がついた公園となってる。入場料を取られる。みどころを教えてもらい、遊歩道に沿って見学した。大小様々、鮮明不鮮明なものを取り混ぜて人物、兵士、家屋、その他よくわからない記号など夥しい岩絵が各所に彫られている。岩は、氷河に削られた岩盤なので、擦痕が見られる。雨模様の悪い天気であったが、案内に従って一通り見た。これだけの岩絵を彫ったカムニ族に敬意を表そうと思う。イタリアで最初の世界遺産の指定を受けただけのことはある。ナクアーネ岩絵公園は、駅の裏山に当たり、園内を一通り見て、出口のそばの階段を降りて町に出て駅まで歩き、ローカル線で再び 1 時間半をかけてブレージャへと戻った。

ブレージャは、人口約 19 万人の地方都市であるが、歴史は古く、ローマ時代のカピトリーノ神殿の遺跡が残り、中世のサンタ・ジュリア修道院は世界遺産となっている。中世の城塞も残っており、その他大聖堂など見るべき所もたくさんある。ブレージャ自体日本からの旅行者が普通に行くようなところではないが、世界の観光地イタリアを代表するベニスやフィレンツェ、ミラノなどと比べると静かで落ち着いており、別世界のような所である。是非一度訪ねてみることをお勧めする。



ナクアーネ岩絵公園の岩絵(3)家が描かれている



ブレージャの大聖堂



ブレージャの城砦

今回の旅行では、ベニスのマルチャーナ図書館に所蔵されているフラ・マウロ図とモデナのエステンセ図書館に所蔵されているカンティーノ図を見たいと思っていったのだが、残念ながらフラ・マウロ図は運悪く訪問した日は図書館の都合で閉館だった。また、カンティーノ図も、近年の地震の被害を受け現在公開していないとのことであった。

フラ・マウロ図は、15世紀にベニスのフラ・マウロという修道士により描かれた地図で、それまでのキリスト教の世界観で描かれた地図と異なり、エルサレムを中心としていない世界図である。日本が初めて描かれたヨーロッパの地図としても有名である。普段は図書館で公開されているが、真に運悪く、私が訪ねたときは展示室を閉めていた。しかし、図書館の掛を訪ね、高精細画像のコピーをもらってきた。それには、日本がチンパグ(cimpagu)と書かれている。

カンティーノ図は、新大陸が描かれ、スペインとの世界二分線が描かれた地図であるが、イタリアの貴族がこっそり写させてポルトガル王室から持ちだしたものである。1502年のことで、持ち出したのはカンティーノという男でそのためカンティーノ図と呼ばれている。ポルトガル王室所蔵の地図は、その後リスボン大地震により灰燼に帰したが、イタリアにに残り、大航海による実証的に描かれた世界図の嚆矢をなすものとして知られている。

モデナという町は、ミラノから特急列車で約1時間45分、ブレージャと同様の田舎町であるが、ロマネスク様式とゴシック様式の融合した大聖堂が世界遺産となっている。バルサミコ酢の産地として有名である。

世界の地図の歴史に残る地図を見ることができなかったのは残念だったが、またの機会に一度は本物を見てみたいものだと思っている。



カピトリーノ神殿



フラ・マウロ図



カンティーノ図